

東京都議会議員

かみばやし

しげる

神林 茂



東日本大震災で亡くなられた方々とそのご遺族に対して深く哀悼の意を表し、被災者の方々に心よりのお見舞いを申し上げます。



神林茂議員 東京都議会本会議（6月24日）一般質問より、一部抜粋して報告いたします

地元上空を飛ばす左旋回飛行に決着を！！

羽田空港では、昨年10月21日、4本目の滑走路が供用開始し、10月31日には国際定期便が就航し、首都圏における産業経済の発展や国際間の交流に大きく貢献してまいります。また、その一方で、国際化・深夜早朝に伴う環境や交通問題、今回の大震災を踏まえた防災面での見直し等、新たな課題も見えてまいりました。



神林茂議員 質問 A滑走路を北側に離陸し左旋回するいわゆる左旋回飛行は、4本目の滑走路完成による離発着能力が増加した時点で、即時廃止すべきものであります。今こそ、この問題にしっかりと決着をつけ、一日も早く具現化されるよう積極的な対応を図るべきと考えますが、東京都の見解を伺います。

答 弁 管制など空港運用の習熟を経て数年で廃止することを目標とし、都としても、国が早期に目標を達成し、地域への騒音影響が軽減されるよう働きかけてまいります。

神林茂議員 質問 今後影響が懸念されている航空機騒音をはじめとする環境問題について、都の見解を伺います。また、今回の大震災における貴重な経験を基にし、災害の広域輸送拠点・地域の広域避難場所である空港における震災対応の見直しを国に依存するばかりではなく、積極的に取り組むべきと考えますが、見解を伺います。

答 弁 深夜早朝の時間帯拡大や、発着回数の増加などの状況を反映して、今年度、羽田空港周辺地域の詳細な調査を実施します。国に対して実態を踏まえた防止対策を要望してまいります。

答 弁 中央防災会議での、地震、津波、液状化被害の把握、分析や今後の対策の方向性などについての検討をもとに、都としては、国や地元区とも連携して対応策を検討してまいります。

社会福祉施設の耐震化促進を！！

神林茂議員 質問 保育所・高齢者施設・障害者施設等の災害に弱い多くの人命を預かる様々な社会福祉施設の耐震化促進、不測の事態への対応や連絡体制の整備を協力に推し進めるため、これまで以上の積極的な支援が必要と考えますが、所見を伺います。

答 弁 ご指摘のとおり、今後とも、施設の取り組みを積極的に支援し、社会福祉施設の耐震化等を一層推し進めてまいります。

大田区を「ものづくり特区」に！！

神林茂議員 質問 規制の緩和や税制の特例がある「総合特区制度」の法案が6月22日に成立し、大田区でも製造業の技術や国際競争力の強化を目指した「ものづくり特区」を提案しています。都が提案する「アジアヘッドクォーター構想」の具体化にあたり、大田区の「ものづくり特区」をバックアップし、国際競争力の強化や産業集積機能をも視野に入れて、広範な取り組みとして進めていくべきと考えますが、所見を伺います。

答 弁 都としての特区申請に向けた検討を進めていく中で、大田区とも緊密な意見交換を行い、実現に向けて共に努力してまいります。

震災を考える.....放射能特集.....

都議会自由民主党では、神林茂議員の提案をもとに、4月28日、「都議会自由民主党東日本大震災復旧・復興対策推進本部」を設置いたしました。その目的としては、被災地の復旧・復興及び被災者の支援に関する取り組み、都民の生活不安を解消し、東京の産業の元気を取り戻す取り組み、津波や液状化、高層ビル対策など、新たな防災課題への取り組みであります。今日まで、震災に関連する約60の各種団体からの緊急要望をとりまとめ、都知事に要望書を提出すると共に、第2回定例会では、1374億円の震災に関する緊急補正予算を編成させていただきました。今後とも、中長期にわたる責任ある対策を進めてまいります。

今回は、情報が不足し不安が広がる原発事故による放射能汚染について、質問形式でポイントをまとめてみました。

原発事故による大田区の放射能汚染は大丈夫？

放射能は見えない光線を出す花粉のようなもので、風によって運ばれ、雨に溶けて降り注ぎます。6月下旬における大田区内3ヶ所での測定結果は、0.07~0.12 $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト) で、健康への影響を及ぼすレベルではありません。



ひとくちメモ 「シーベルト」って、何？

体に放射線がどの程度影響するかを表した単位がシーベルトで、10万 $\mu\text{Sv/h}$ (マイクロシーベルト) が100mSv/h (ミリシーベルト)、0.1 Sv/h (シーベルト) になります。

身の回りには日常どれくらいの放射線があるの？

大地の岩石や土から0.4ミリシーベルト、宇宙や空気中から0.7ミリシーベルト、食物から0.4ミリシーベルト、また人工的に受ける放射線としてレントゲンやCTスキャンから2.4ミリシーベルト、雨等の降水物や原子力施設などからも極微量の放射線を受けています。日本人が受ける一年間の被曝量は、2~5ミリシーベルト程度と言われております。



地表面からの高さによる放射能測定値の違いは？

一例ですが、都の健康安全研究センターの測定結果から、地表面180cmで0.07マイクロシーベルトの時に、地表面1cmのところでは、0.09マイクロシーベルトとなっており、他の測定の結果からも地表に近づくほど若干上昇した数値がみられます。



マスコミで話題となった飲み水や下水道スラッジの汚染はどうなったの？

3月22日、金町浄水所で検出された乳児への安全基準を約2倍超える放射性ヨウ素は、その後、数日間で不検出となりました。スラッジプラント等の下水道施設では、放射性物質が含まれる汚泥焼却灰などを密閉した厳重な管理が行われております。定期的に空間放射線量を測定公表しており、周辺に放射能がもれる心配はありません。



健康影響に及ぼす被曝量の目安は？

国際放射線防護委員会 (ICRP) では、平常時における一般公衆の線量限度 (自然放射線量と医療を除く) について、年間1mSv以下におさえることを勧告しています。ただし、今後、政府から提示される安全基準に十分注視する必要があります。

